

はい!

やくも町議会です

第 87 号

令和7年12月

編集／議会広報広聴常任委員会

八雲町議会新体制がスタート



令和7年10月19日八雲町議会議員選挙が行われ、14名の八雲町議会議員が選出されました。うち、新人議員が3名当選し、新たな体制で八雲町民の幸せと八雲町の発展を目指して、議員一丸となり、全力投球で頑張ります。どうぞ応援してください。

令和7年11月11日に臨時会（当選後の初議会）が開催され、議長、副議長、各常任委員会の構成などを決定しました。（詳細は17ページに掲載）

主な内容

	ページ
○決算特別委員会について	②
○5名の議員が町政を問う（一般質問）	⑧
○議決・賛否一覧他（定例会・臨時会）	⑭
○常任委員会の活動（所管課報告）	⑮
○八雲町議会新体制について	⑰
○3期12年間町政を担った前岩村克詔町長（耳をすまして）	⑱



町民の幸せにつながったか？

令和6年度決算審査

右のQRコードから決算委員会の中継を見ることができます



1日目



2日目



3日目



牧野 仁 委員長

【総括質疑】

Q R6年度の決算における成果と課題、報道による自己採点30点の理由は何か。また、八雲町には魅力があると思うが、この町の伸びしろをどう考えるか。(赤井)

A 成果としては、近隣町に比べ人口減少率が低かったこと。それは、雇用の場の確保ができたことによると思う。ふるさと納税がある程度維持できたこと。課題は企業訪問ができなかったため、企業版ふるさと納税が減少したこと。八雲町においてふるさと納税は貴重。自己評価30点は、企業誘致に町の支出が多かったこと、医師確保ができなかったことが主な理由。

【総務費】

八雲町の伸びしろは新幹線。予定通り開通していたら、医師の確保を始め、いろいろな企業誘致ができていたが、開通が伸びたので、今後も企業誘致や省庁分庁化に向けて民間の立場でも、全力で協力していきたい。(町長)

新役場庁舎等整備事業

Q 役場新庁舎に地元の木材はどの程度使われるのか。できれば地元の木材を多めに使ってほしい。(倉地)

A 地元木材を多く使いたいと我々も思っている。配慮していきたい。(新庁舎建設推進室長)

自動車運転免許証自主返納支援事業

Q 運転免許証自主返納者ハイヤー利用助成金について、予算額が231万8千円に対し、決算額は132万円。自主返納の利用者が少ないと思われるがどのように捉えているのか。(斎藤)

A 毎月、コンスタントに請求はある。今後の推移としては、現状維持と見込んでいる。(交通防犯係主査)

A この制度は申請から3か年継続するものだが、入院や施設入所

等で途中で止められる方もいる。申請数も使用数もその時々で変動するが、できるだけ固く見積もっている。(危機対策課長)

地域おこし協力隊事業

Q 今後の見通しは？(赤井)

A 19人分予算化していたが、7人減で執行残が出た。今後も募集業務を工夫し、魅力ある取り組みを目指す。受入先が決まってから募集をしている。地域で必要だという声があれば対応に向けて協議することは可能。(政策推進課長)

Q 他の自治体では、挑戦したいことをやってみて！という募集をしているところもある。八雲町では出来ないのか？(三澤)

A 八雲町は確実に移住・定住に繋げていきたいので、そうした取り組みは現段階は考えていない。(政策推進課長)

コミュニティ助成事業

Q 町内会加入1世帯あたり500円を助成しているが、町内会に加入しない世帯が増えている。全町の何%が町内会に加入しているのか。(大久保)

A 八雲地域が5018世帯、熊石地域が962世帯、合わせて5980世帯で約74%が町内会に加入している。(政



関口正博 副委員長

式でいいのか。(三澤)

〔A〕町内会活動の活発化をめざして、このコミュニティ助成事業があるのだが、町連協の役員とも協議して対応したい。(政策推進課長)

地域会館整備事業

〔Q〕備品に対しても補助金が出るルールとなったのか。災害備蓄品は認められるのか。(赤井)

〔A〕ルールを決め、各町内会からの要望も出てきている。災害時しか使わない物は災害備蓄で対応するが、具体的な区別はまだ明確ではない。(政策推進課長)

津波避難計画改定事業

〔Q〕この事業は完成したのか。内容は7月30日の津波警報避難にどれくらい活かされたのか。(赤井)

〔A〕3月に完成し、これから取り組もうという矢先の避難だったので、課題は多かったと認識している。(危機対策課長)

〔Q〕避難計画は実施できたのか、今後実施予定なのか。(三澤)

〔A〕今後、町内会等と訓練を含め、色々と工夫しながら連携を深め、取り組んでいく。(危機対策課長)

ウクライナ避難民受入事業

〔Q〕ウクライナ避難民がいなくな

り連携協定を結んでいる大学に貸すという事だが、年間何日活用したのか。せっかく家電もそろえているのに、ほぼ空き室状況では部屋が傷むだけ。病院の実習生に提供するなど、もっと有効活用すべきでは。(赤井)

〔A〕上智大学12人に4日間活用。今後、売り払いを考えているが、決まるまでは、収益を伴わない活用は可能だと思うので協議する。(町長)

ふるさと応援寄附金奨励事業 ふるさと応援寄附金積立金

〔Q〕これからのふるさと応援寄附金は、金額が下がる可能性が高い。

〔A〕寄附金上位の自治体には、八雲より人口が少ない町もある。そこは、ふるさと応援寄附金の新たな可能性を探ることなどを外部発注している。これまで外部発注を検討したことはあるか。(関口)

〔A〕検討したがなかなか難しく、議論が進まなかった。

また、一つの会社に寄りすぎてしまったという反省点はある。9月にポイント制度は廃止されるが、新たなスタートをするぐらいの気持ちで議論しながら進めていきたい。(町長)

電子契約導入事業

〔Q〕110万円という予算が付いていたのに、なぜ0円なのか。(佐藤)

〔A〕見積合わせを実施した結果、導入費用が1円、利用料が1円の計2円の見積金額だった。今回契約した業者については、道内では15自治体が契約し、北海道も同じ業者との契約になっている。(会計課長)

〔Q〕ハンコがなくなって契約というものがすごく便利になったと思う。ただ、部署によって進んでいるところと、進んでいないところがあるのではないか。進捗率はどれくらいか。(大久保)

〔A〕4月から8月末までで221件。概算ではあるが全体の契約数は235件で進捗率は94%となっている。(会計課長)

キャッシュレス決済導入事業

〔Q〕始まって1年(令和6年度から)になるが、進捗はどのくらいか。(大久保)

〔A〕昨年の11月から開始され年度をまたいだ8月末の件数は797件。住民票等戸籍関係の書類を発行している。このうちキャッシュレス決済の件数は878件、利用率は、12%になっている。(会計課長)

策推進課長

〔Q〕年々、町内会に入る世帯が減っている。メリットを打ち出そうとするが、理解されず、脱退、解散が相次いでいる。例えば、町内会加入者に生ゴミの収集袋を配布するのは好評だが、各町内会が存続しやすい施策を考えていただきたい。(大久保)

〔A〕町内会に加入していない世帯があっても、街路灯料金は町内会が払うなど矛盾が生じている。

たとえば災害時の助け合いのよう、何か町内会に入っていると有利であるということを見極めた。(町長)

〔Q〕加入率が低いのに、この計算

Q 税金の支払いには対応できないのか。(大久保)

A 決まった金額の手数料しか対応していない。固定資産税や軽自動車税は(地方税統一) QRコード(EL-QR エルキューアル)を利用してスマートフォン等から自宅でキャッシュレス決済できる。今後は、税目を増やすことを検討している。(会計課長)

Q 水道料金はキャッシュレスが進んでいない。足並みを揃えないのか。(大久保)

A 一般会計と企業会計はシステムが違うので簡単に出来ない。(会計課長)

A 将来的には、QR決済を導入したい。令和8年度までは今のシステムを使用することになっており、令和9年度以降に対応できるか検討していきたい。(環境水道課長)

証明書等コンビニ交付事業

Q コンビニで証明書を出せるようになったが利用状況はどうか。また、見込んでいた利用数と比較してその進捗状況はどうか。(佐藤)

A 2月に開始し、8月の時点で、毎月約90件の利用で、住民票と印鑑証明の交付である。利用状況の

予定数は想定していないが、年間の証明書の発行件数が約1万6千〜1万7千件あるので、利用はまだまだ少ない。(住民生活課長)

熊石地域デジタルリテラシー向上事業

Q 利用状況はどうか。(関口)

A デジタル機器の使用方法的講座や研修など、毎週水曜日等、熊石3箇所では北海道の補助制度を活用して実施している。集学校に委託しており、開催数は、90回で、利用者は40人弱が利用している。携帯電話の操作方法などが主な内容。(地域振興課長)

Q 八雲側でもできないか。取り組みは必要だと思うが。(関口)

A 八雲地域は国の補助の区域外となっているが、例えば、教育関連分野での新たな仕組みや新たな業種への支援などは、今後考える。(政策推進課長)

Q 社会教育、生涯学習の範囲であれば教育関係から国等の補助金を活用できるのでは。(三澤)

A パソコン教室等の支援はすでに行っている。ほかに要望があれば支援はできるものと考えている。(政策推進課長)

【衛生費】

風疹しん加的対策事業

【昭和37年4月2日〜昭和54年4月1日生まれの男性で風疹の予防接種を受けていない方が対象。】

Q 令和元年から令和6年までに検査対象者が180人、受診者数649人。令和6年度は検査人数62人に対し、接種人数が19人。接種者が少ないのではないのか。今後はどうするのか。(佐藤)

A この制度は令和7年3月31日までで令和6年度をもって終了とされている事業であり、継続はありません。(保健福祉課長)

検査して抗体があるかないかで接種するものなので、結果、接種人数が少ない (三澤)

【労働費】

U・イターン就職奨励金事業

Q この制度は一度立ち止まって見直すとしていたが、今後の方向は。(佐藤)

A 令和8年度も継続することになった。【50歳未満で1年以内に町内の事業所の正規雇用になった

者。社会保険に加入されていること等が条件。】早期退職に対する奨励金の支出については、制度変更に向けて精査している。(商工観光政策課長)

【農林水産業費】

農作物有害鳥獣被害防止対策推進事業

Q 農作物被害の軽減を図るための侵入防止柵(電気柵)を設置に対する補助だが、クマの出没が頻繁な現在、もっと予算を付ける必要があるのではないのか。(佐藤)

A 昨日の夜も落部地域にクマが出た。熊石地域は八雲地域以上にクマが出ている。また、シカの出没も多い。これらの現状を踏まえたうえでの予算措置は必要と考える。(町長)

Q 電気柵の設置実績について、決算では5件、今年度予算では10件となっているが、上限15万円では、足りないのでは。(倉地)

A 畑を守るための電気柵であり、頻繁に出没するような場所や人的被害が起きないように対応をしていく。(町長)

Q 上限15万円というのが使いづらいのではないのか。電気柵は設置した後も、漏電防止のための草

刈りや除草剤も必要だ。上限額を上げるべき。申し込み段階での希望者の声は、どんなものがあるか(三澤)

Q 1戸当たり15万円、10戸分を想定して150万円の予算としている。2分の1が上限なので事業費30万円の半分を補助している。当初はこの制度設計で5ヘクタール程度の畑に対応できるものとしていた。しかし、昨今の物価の上昇等で5ヘクタールまで対応することが困難になってきているものと考え。今後は、設置補助の拡大や適切な設置方法、管理方法も含め対応を考えていきたい。(農林課長)

有害獣駆除対策事業

狩猟免許等取得費補助金

Q 有害駆除の実績は予算を残している。更に狩猟免許取得実績0円。想定された頭数が捕獲できるように、罟猟や取得対象を増やすなどの工夫が必要ではないか(三澤)

A 6年度は狩猟免許取得の希望がなかったが、今年度は今のところ2名から相談がある。捕獲の報酬費で鹿は上回っているが、熊が低下。出動回数が減ったこともある。罟猟の補助要請は今のところない。今後も猟友会と相談しながら

を進めていく。(農林課長)

Q アライグマ対策も工夫が必要ではないか。また、出動費の値上げも必要(三澤)

A 6年度の捕獲はなかったが、7年度は、箱罟で5頭のアライグマを捕獲している。出動報酬費は、4年度に見直しているが、銃弾の値上げ等もあるので、ハンターと相談しながら対応していきたい。(農林課長)

Q 熊の駆除に対する法律が変わった。そのことで、関係者間の対応はなされているのか(大久保)

A 緊急獣猟ということ、9月から法律改正されるが、5月に警察やハンター、総合振興局、役場関係者で訓練を実施。今後、近隣町含め八雲町で関係者と訓練を行う。(農林課長)

Q 万が一、家屋等に損害を与えた場合の補償はどうなっているのか。その場合の責任者は誰になるのか。町職員で狩猟免許を取得している職員は何人か。今後増やすべきではないか。(大久保)

A 緊急獣猟において物損があった場合のために、自治体が保険に加入し保障する。人身事故は国家賠償法に基づく保障を実施自治体

が行うこととなっている。最終的には町長が責任者。現在の免許所有者は4名。免許の補助制度の周知も検討していきたい。(農林課長)

Q 八雲警察署はどういった立ち位置で加入するのか。(三澤)

A 職務執行法により、警察官の命令で発砲することは出来ることになっているので、協力体制は構築されている。(農林課長)



コンブ資源増大事業

Q この事業の概要を改めて教えていただきたい。(関口)

A 八雲管内は、スポアバックという袋状のものにコンブの母藻を入れて、適正な漁場に投入し、コンブ発生を促す取組。落部管内は、地域のコンブ漁場の環境調査に水中ドローンを活用して実施しているもの。(水産課長)

Q 天然コンブの資源は少ない。今年、八雲管内で1番水揚げの多い山越地区でも1週間程度、落部

地区においては、1日で漁が終わっている状況である。

今、落部地区では、養殖コンブの取組が始まっている。この養殖事業を熊石地域も含めた八雲町全体でしっかりと行政としてコンブの生産について取り組むべきと思うが、どう考えているか。(関口)

A 現在、コンブ礁の整備が進められているが、落部管内では養殖試験も行われている。コンブは海水の高水温化により水揚げが減少している。養殖では、コンブ種苗糸の確保が難しくなっていることなど課題が多い。漁協や北海道と相談していきながら支援を考えていきたい。(水産課長)

Q コンブ礁には昨年コンブが付かなかったと聞いているが、原因は何か。(黒島)

A 令和2年から落部、山越に50基ずつ、現在350基が整備されている。令和2年度から5年度に整備したコンブ礁には、全体で約84%繁茂している。また、アイナメ、メバル類といった魚種、ウニ、ホヤ等の動物類も確認されており、施設整備の効果は発揮されている。(水産課長)

Q コンブ礁(アルガリーフ)は、

きれいに掃除しないとコンブの胞子が付かない。せっかく何億円もかけて毎年施設を整備しているのだから、有効的に漁業者が水揚げできるような方法を考えるべきだ。今後、どのようにしていくのか。

(黒島)

A アルガリーフは一定期間経つと効果は薄れる。どのような管理方法がいいか設置者である北海道や水産普及指導所、コンブ礁を開発した業者に情報提供いただきながら、関係機関と検討していく。

(水産課長)

Q 以前は投石して漁場造りしていた。コンブの成長もいいし、胞子の付きもいと聞いている。このようなコンブにふさわしい漁場づくりも考えてもらいたい。

また、熊石地域の水産試験研究施設において、コンブ種苗を作る際、お湯を必要とするが、ポイラーが小さく、種苗ができないと聞いている。どのような状況になっているのか。(黒島)

A 雑海藻等が付かないように海水を80度以上のお湯で滅菌する必要がある。現在は、海洋深層水をガスで温めていることから、その作業に時間がかかるため少量しか

できない。(産業課長)

【商工費】

商工振興事業費補助金

中小企業育成資金保証料補助金

中小企業育成資金貸付金

町内事業者経営安定支援事業

中小企業等設備導入支援事業

Q 町長は企業誘致にばかり力を入れていてと思っていたが、これらの補助金を見ると地元企業の事も考えていることがわかった。これらの事業を通じて持続可能な取り組みになっているのか(赤井)

A 企業誘致に力を入れてきたのは確か。しかし、地元企業においても雇用拡大、働く場所の確保は考えてきた。地方創生の中で民間も使える補助金も出来たので、今後商工業者にPRしながら、事業継承が図れるよう対応していきたい。ペコレラが独立したのは一つの成果だが、これだけでは足りない。今後ふるさと納税の商品を増やしていくよう、民間の力も借りていく。(町長)

【土木費】

都市公園等修繕事業

Q 公園の考え方が、近年、気

温が高くなりすべり台が熱くて使えないなど気象条件が変化している。

八雲地域は水辺で遊べる場所がさらんべ公園しかない。プール以外にも水に親しめる場所、涼めるような場所があっても良いのではないか。(大久保)

A 水とふれあう場所、雨が降っても子供が遊べる場所は必要であると考え。徳川公園は、水で遊べる場所、日陰等を整備する場所に適していると思うので今後、検討していく。(町長)



【教育費】

木彫り熊百周年記念事業

Q テレビ放映において、この予算の効果はあったのか。(赤井)

A 自分の監督不行き届きで十分だった。町の歴史についても必要だった。(町長)

A 映像制作放送に関して、尾張徳川家の移住の歴史や木彫り熊の

発祥、木彫り熊の歴史の3点について、歴史資料に基づき24分の番組として制作した。この番組と八雲町のPRをチカホやホームページ等で行った。(社会教育課長)

Q 木彫り熊が注目されたことは公の力も大きいけれど、近年民間で関わっている人たちの力も大きいと思う。そうした人たちとの連携も必要だったのではないか。(三澤)

A 木彫り熊の歴史とPRが目的だったが、もつと多くの意見を入れるべきだったと深く反省している。(町長)

地域部活動推進事業

Q 予算39万6千円のところ12万6千円の決算。研修会等を行っていくと聞いているが、今後さらに進める考えはあるのか。(倉地)

A この金額は検討協議会委員の謝礼分。検討協議会が今後継続するかどうかは検討中。(体育課長)

学校給食費無償化事業

Q 6年度は予算内で間に合っているが、近年、米を含めた食材費の高騰に現状で対応できるのか。近隣町との比較でどれくらいの位置か。(大久保)

A 6年度全体の決算では、食材

賄い費で切迫している。6年度は7%値上げをしたが、現時点では、食材が12%値上がりしているのが、状況に合わせて値上げも考えられる。近隣町では中間に位置している。(給食センター所長)

【歳入】

収入未済額について

Q 収入未済額が毎年あまり変わっていない。不納欠損に繋がっていくと思う。どう考えるか。

(斎藤)

A 一定の方が滞納している。無財産や生活困窮者などである。一定期間経つと不納欠損に至っている。(財務課長)

【国民健康保険事業 特別会計】

Q 保険給付費が前年度比約7千7百万円減となっている。会計全般にわたり積立金(基金)もあり良かったと思うが、診療報酬減収はどのように受け止めているのか。また、レセプト点検はどうなっているか。(斎藤)

A 後期高齢者医療に移行した方が多いので、医療費が下がったものと思われる。レセプトの点検は

国保連合会に委託している。(国民健康保険係長)

【熊石地域簡易水道 特別会計】

Q 以前から続いているが、漏水が改善されない。町にとっても住民にとっても経費が無駄ではないか。(佐藤)

A 漏水は管の老朽化が主な原因。夜間に見守り、漏水箇所の調査を行い対処している。過去に行った調査では、事業者へ委託し、大きく調査、修繕を図ったが、さらに新たな漏水が発生し、その効果は限定的であった。

現状は、地元に緊急対応可能な事業者がいらないことから、町の直営等で復旧を行っている。水道本管については、下水道工事の際にはぼ入れ替えが終了していることから、各家庭に引き込む部分での漏水が主な原因であり、事前に把握することは困難である。(地域振興課長)

A 熊石地域は、地形的に砂利混じりの地質が多く、なかなか表面に水が出てきにくい。表面に水が出て、発見に至った時は、早急に対処している。(地域振興課参事)

Q 有収率32.9%という数字は深刻ではないか。7割近い水がお金に換金されないままどこかに行ってしまうている。抜本的な解決には、管を入れ替えるのに、これだけの費用が必要であるから、計画的に修繕していくということを示すことも必要ではないか。住民に水を供給し続ける責任を負っていて大変だと思うが努力してほしい。(三澤)

A 事前に枝管部分を掘り起こして調査していくには、相当の費用がかかるものであり、対応としてはできていない。有収率が低いという現状は、担当課としても、いい数字とは考えてはいない。少しでも有収率が上がるよう対処したい。(地域振興課長)

【病院事業会計】

Q 病院のホームページを見てみると地域医療ブログに「大規模地震時医療活動訓練」が行われたと記されてあった。こうしたことは町民にとっても心強いし、地域の病院としてもとても誇りに思えること。本当に良い病院だということとがわかる。ただ、ホームページのブログは、特に若い世代にはあ

まり読まれていないように感じる。SNS等を有効活用し、もっとアピールしていくことで、総合病院で働くという入口、人材確保につながるものと思うが、今後の取組はどのように考えているのか。(関口)

A 大規模地震時医療活動訓練を評価していただいたことはありがたい。一方で広く一般町民に伝わっていないことは残念に思う。今後は、当院の情報発信の仕方を検討したい。(総合病院事務長)

Q 町として一般会計からの繰入金以外に手助けできることはないか。病院の情報発信等を専門に行う人材の確保等の人的支援はできないか。(赤井)

A お金だけでなくというのは、そのとおりだと思う。病院と協議しながら進めていきたい。(町長)



一般質問

町政を問う！

※今回5人の議員が質問をしました。質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。華やかであるが「力量」が問われる。

Q

八雲町は差別の無い町
になれないのか？

みさわ きみお
三澤 公雄 議員

問 私は、これまでに2度『差別の無い町』宣言ができないのか？と町長に質した。その都度、『前向きな答弁を貰っている』と思っているが、現在の進捗状況を伺う。

町長 当町では、これまで障がい者差別禁止や女性の活躍推進に係る取組を進めると共に多様な性のあり方への理解を深めるセミナーを開催するなどして、人権に関する啓発をしてきた。

特に当町には、7月末現在約500名の外国籍の方々が暮らしており、今後更に異なる文化や考え方を認め合う多文化共生の意識を醸成していくことが求められ、共に安心して暮らせる地域社会を築くためにも、差別や偏見を許さないという姿勢を明確に示すことは不可欠

と考える。

ただし、宣言は単なる言葉にとどまるものではダメで、具体的な行動計画や施策と連動することに意義があると認識はしているが現時点で全庁的な研究や体制は整っていない。

今後は、町民の理解と協働を得られる体制づくりを進めながら、差別の無い町の実現に向けた行動計画を策定し、適切な宣言へとつなげていきたい。

問 「全庁的な研究体制がまだ」との答弁だが、具体的にどの辺まで進んでいるのか？人選を含めた「中身」の議論は始まっているのか？それとも、まだ言葉だけで「研究体制を作って、広く議論したい」という程度なのか、現場での進捗状況を重ねて伺う。

総務課長 今現在、それぞれの所管において担当分野ごと（例えば障がい者差別禁止法の周辺や男女共同参画の部分等）に取組を行っている。全体を捉えての協議、議論をする体制には至っていない。

問 町長、今の答弁からすると目標（差別を無くす）に向かって行く姿勢を高らかに示す『宣言』を先にした方が役場内での議論形成は、しやすく成るのではないのか。

今回の定例会で、この質問を選んだ背景を話させていただく。

なぜ9月1日が「防災の日」なのか、それは関東大震災という大災害を教訓とするために選ばれた日である。関東大震災で多くの犠牲者が出たが、震災関連とは一線を画す犠牲者も沢山、発生している。デマを元にした主に朝鮮出身者への差別攻撃である。虐殺という文言を当てる場合も多いと思う。今、このことを「無かった」ことにしたい方々による歴史修正が堂々と行われる世の中になって来ている。さらに、そういう主張をしている政党がこの夏の参院選で、この八雲町で800票以上の投票を得た事実には強い危機感を感じた。なので、ここで堂々と差別の無い町宣言をする、そしてその宣言に相応しい行動が、同時でも後からでも示していく事が、今の時代から必要だと思い質問した。

町長 議員の言われるとおり、まず宣言をして、その後になん少ずつやっていく方法も担当課と相談して検討してみたい。

総務課長 「差別の無い町宣言」によって何が変わるのか、を町民に示す事をセットにしたいのが本音だが、目の前の議論を聴いて悩んでいる。

担当課を集めて宣言の可能性や進め方を議論してみたいと思う。

Q

津波警報が発表されて

見えた現状と課題は？

あかい 赤井 睦美 議員

問

カムチャツカ半島の地震による津波警報が日本にも発表されて、浸水区域の多くの方が避難した。

各避難所とそれ以外の区域、そして、災害対策本部において見えた現状と課題は？

町長

今回は、避難所として指定していない施設に避難、避難の

必要がない地域からの避難、要援護者の避難支援、国道・道道及び高速道路の交通規制、商店や事業者の閉店などから飲み物や食料の調達に支障が出た。また、自動車

による避難者が多く、駐車場の確保や避難誘導看板の必要性を感じた。今回は平日の日中の津波警報だったが、職員の安全確保に配慮しながら、限られた人員で災害対応に当たることの厳しさが明らかになった。これが休日や夜中なら職員の参集も難しく、避難所の開設すらままならない状況に陥るのではと、改めて地震・津波災害の厳しさを実感。

町民の皆様には、自分自身と家族の命と安全を守る自助の意識、

その上で近所の人達と支え合う互助の重要性を再認識してもらいたい。日頃から各家庭や職場、学校等で災害について話し合い、水や食料等の備えをしてもらいたい。

落部地域にも大きい駐車場で避難できる場所が必要で、そういう所に消防署があっても良いと考え、落部の消防署の建設に関しては、今後十分協議、議論していく。

Q 病院を維持するには

問

今、自治体病院の9割が赤字だという報道もあるが、八雲町の病院も例外でない。電気代や物価の高騰による影響、近隣町を含む人口減少、内科医不足も大きく影響していると思う。しかし、今のままの国の方針では、地方がどんなに頑張っても自治体病院をこのまま維持することは、ほぼ不可能になっていくと思う。町長はじめ病院スタッフのみんなは、ずっと以前から医師や各スタッフの確保、患者輸送バス導入の検討、デジタル化など様々な努力をしていることは、みんなが理解している。しかし、もう自治体の努力だけでは限界にきていると思う。町長は今までの取り組みを通して、10年後も20年後も頼られる病院でいるためには、どのような方法が必要だと考えるか？

町長

地域の基幹病院としての機能を維持するためには、医師をはじめとする医療従事者の確保は重要。とりわけ常勤医師の確保が

進まない中、診療維持を出張医に頼らざるを得ない状況であり、極めて厳しい経営環境にある。現在、一般会計からの多額な繰入金により何とか維持されてきたが、なお余りある巨額の損失を計上する経営体質に陥っている現状。この現状を国や関係団体に何度も訴えているが、なかなか理解してもらえない。

常勤医師の確保には新幹線開業が一番だと思っていたが、2030年に新幹線が開業しなかったのは大打撃。財政については、ここ数年は20億円あると行けると思うが、診療報酬が変わったり、医療自体の環境が良くならなければ、その後はわからない。

自分は、本当に財政が厳しくなったら、町長の給与を半分にしても守る覚悟はあるが、赤井議員にもそうした覚悟はあるか？

報酬を0にしても守ります！



Q 国道沿いに慰霊碑を建立できないか？

ともこ 議員
さとう 佐藤

問

野田生の国道でトラックとバスが衝突し、5人が死亡した悲惨な交通事故から今年の6月18日で2年が経った。遺族の皆さんの悲しみは、未だ癒えていないと思う。

浜松の国道沿いには、交通事故で亡くなった方の慰霊碑が建立されている。東野やバイパス入口付近にも、同様の物が存在する。事故の内容や設置者に違いはあるが、遺族の方々が毎年お参りできるように、また、町内外への交通安全の象徴として、八雲町として慰霊碑を設置してはどうか。自治体が

主体的に設置することが難しいのであれば、関係団体への働きかけやその時期前後に献花台を設けることはできないか。

町長

自治体が慰霊碑を設置する事例は、戦争や地震・津波などの大規模災害などのように、地域全体に影響が及んだ場合に多く見られる。

個別の交通事故については、遺族や関係団体が主体となって建立し、自治体は設置場所の提供や維持管理に協力することが一般的であり、実際に八雲町に現在設置されている慰霊碑や交通安全祈願塔についても、遺族の方々や交通安全団体が設置したものである。

このため、町が主体となって慰霊碑を建立することは難しいと考えている。ただ、交通安全団体や遺族の方などから要請があれば、相談には応じるということで理解してほしい。

Q 物価高騰に見合う引き上げを！

問

物価高騰が止まらない。

福祉タクシー助成事業は、75歳以上の町民税非課税世帯と障がいのある方に1万2千円。高齢者等入浴料助成事業は、満65歳以上の高齢者と各種手帳を持っている方に年間24枚、1回200円。寝たきり高齢者等紙おむつ利用券給付事業は、町民税非課税世帯に限り月額5千円の利用券を給付している。

しかし、物価は上がり、年金は増えない中で生活が圧迫されている現状にある。「福祉の町・八雲」としてこれらの金額の引き上げ、対象の拡充をすることはできないか。

町長

町では、物価高騰対策として、物価高騰支援給付金の給付や、ひまわり商品券の発行など支援をしている。

福祉タクシー助成事業、高齢者等入浴料助成事業、寝たきり高齢者等おむつ利用券給付事業は、高齢者や障がいがある方へ、費用の一部を助成している福祉サービス

早急に対応を！

問

止まらない物価高騰に、年金生活者や生活保護で生活している方は、窮々としている。

町長は、検討し判断していくということだが、年内にその結果を検討して、常任委員会の方にも提示していただきたいと思うが、そういうスピード感についてはいかがか。

町長

町としてもこの数ヶ月前から物価対策はしっかりとしなければならぬということで幾度も協議をしている。現金給付が良いのか、商工会とタイアップしながらの商品券が良いのか、どんな形が良いのかを協議し、議会の常任委員会にも相談しながら、この物価対策はしっかりとやるべきと考える。

Q

防災について

よこたぎよし 横田喜世志議員

問

7月30日、カムチャツカ沖地震で津波警報が出され、太平洋側6, 775世帯に避難指示が出

された。八雲町では避難所が7箇所開設されたが、より高い所へ避難された方々も多数いた。今回を教訓として検証・調査途中だと思うが、情報伝達の迅速化、高台に避難した場合の安全対策、現場作業中住民の避難所受入態勢など現時点での改善点があれば伺う。

町長

津波警報の発令を受け、災害対策本部を設置し、避難所を開設するとともに、情報収集と避

難者の対応にあたった。防災行政無線等により高台への避難を呼びかけたと同時に役場に電話が殺到し、膨大な問い合わせの対応を余儀なくされ、時間とマンパワーを奪われる結果となった。

初動体制に災害対策本部の役割分担をマニュアル等で明確化し、定期的に職員訓練を行うほか、北海道防災情報システムと連動した情報発信の自動化を検討している。また、徒歩、自動車避難のあり方、避難所の環境改善等の課題も認識している。今後、防災会議を開催し、関係機関と多角的な視点で検証作業を進め、課題を一つ一つ改善していく。町民の皆様においても、自分と家族の命を守る自助の意識、共助の重要性を再認識して、平時からの備えをお願いしたい。



Q

子ども誰でも

通園制度について

問

こども・子育て支援法及び児童福祉法の改正により、令和8年度より全国の自治体で本格実施される予定になっている。八雲町の実施スケジュール等について伺う。

町長

今後、町内保育施設等と意見交換し、来年3月の第1回定例会に条例案を上程し、議決後、事業者を募集する予定。

問

また、並行して子育て支援センターで4月から事業実施ができるよう進めていくが、運営基準により新たな保育所の配置が必要であり、人材を確保しなければならぬ課題もある。

町長

施行に向け、園等と話をするとのことだが、園側として、余分に一人常駐させる体制がとれるのか。

議会を傍聴してみませんか

次の議会は、
令和7年第4回定例会
12月11日(木) 午前10時から
開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

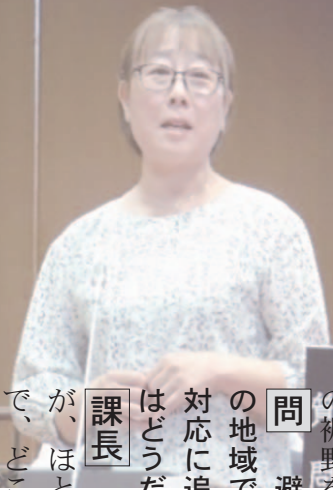
YouTubeで映像配信もします



Q 避難指示を発令して課題を

どのように把握するのか！

くら 倉地 きよこ 議員



の裾野を広げていきたい。

問 避難指示発令により、ほかの地域では問い合わせが殺到し、対応に追われたと聞いた。八雲町はどうだったのか。

課長 役場の回線が10回線あるが、ほとんど電話が鳴りっぱなしで、どこに逃げた方がいいのか、そもそも逃げたほうがいいのかなど八雲町に判断を委ねるような内容や、車を持っていないがどうしたらよいのか。という問い合わせが多かかった。

問 問題点の把握は町民から直接聞く必要があるのではないかと。
町長 災害対応にあたった職員へのアンケート、管理職員による検証会議、また、北海道防災士会道南ブロックの協力のもと、町民向けアンケートを実施中。今後、防災会議を開催し、浮かび上がった課題を一つ一つ改善していきたいと考えている。

災害時に自分自身と家族の命と安全を守る自助の意識と人と支えあう共助の重要性を再認識して、町としても関係機関と連携しながら防災人材の育成や自主防災活動に積極的に支援を行い、防災活動



問 電話殺到の要因は町民の意識の部分かと思う。意識改革をしていく活動、何かあった時の避難所開設、運営を町民自らできるようになっていけるよう、防災マスターなどと、連携してほしい。

町長 危機対策課は交通も担当しており、職員不足は認識している。やれるところからやっていく。

Q 増えるヒグマ被害に、町は住民の安心とハンターの負担への対応は！

問 生活圏に入ってくるヒグマ目撃情報が相次ぐ中、町は町民への注意喚起を行いながら対策を講じているが、人慣れや大きな音も効果なく、人を怖がらないヒグマに対し、ますます危険性が身近に迫っており、ハンターの負担も大きくなっている。町はどのような対策を考えているのか。

町長 ヒグマの目撃情報が寄せられた際にはヒグマ出没情報管理システム「ひぐまつぶ」に掲載、町ホームページで公開、状況により注意喚起の看板設置や警察、農協、教育委員会等の関係機関へ情報共有を行っている。市街地周辺など緊急性が高い場合は、警察と連携して周辺住民への注意喚起を行い、町公式ラインや防災無線を活用し、周知を図っている。農作物被害があった場合や人的被害が懸念される場合には、箱ワナによる捕獲や銃器による駆除を行っている。ヒグマによる被害を防ぐためにはヒグマを人里に近づかせないことが重要。電気柵設置の普及促進などを行いヒグマが出没しにくい環境を整備する。また、市街地での出沒に備え、道や警察、ハンターとの連携の一層強化や出沒対応訓練を行うなど、地域住民の安全確保に取り組んでいく。

問 クマによる被害を防ぐために、電気柵は有効だと思うが、広い農地等は、費用や管理費の負担が大きく、設置が難しいという声を聴く。更なる補助の考えはあるか。

課長 もう少し補助を手厚くできるように担当課と相談したい。

問 ハンターの銃刀法違反による行政処分の問題については、今後、環境省からガイドライン等で示されると思うが、その時は迅速な対応をお願いしたい。

町長 生活圏に侵入したクマにより人の生命・身体に危険が及ぶ恐れがある場合に市町村長の判断により銃器を用いた捕獲を行うことになるため、専門的知識を学ぶ勉強会も必要と考える。北海道の協力を得ながら、警察、ハンターとも連携をとって対応していく。

第3回定例会 令和7年度一般会計補正予算

4,867万2千円を追加

【補正後の総額を158億9,665万8千円】

第3回定例会は、9月4日から9月11日までの会期で開かれました。

補正予算、条例改正、専決処分の報告など追加議案を含め、議案9件、報告5件、同意1件、認定9件、発委3件、発議4件を審議し、いずれも可決しました。

補正の主な内容

- 多機能型交流施設新築工事实施設計業務委託料 1,343万1千円
- 八雲町リサイクルセンター火災復旧工事实施設計業務委託料他 2,443万9千円
- 障がい者医療費、障がい児入所給付費等の国庫負担金及び道負担金の過年度分返還金 608万7千円
- 議員報酬 303万5千円

株式会社青年舎の経営状況

令和6年度は、飼料等の資材価格の高騰による生産コストが高止まりする中、畜産経営への影響を緩和するため、飼料の共同購入や入札等による飼料仕入単価の低減、和牛受精卵の増産による副産物収入の確保、高能力牛群の整備による増頭、増産を推進してきた。

また、酪農畜産関係機関による経営分析・診断を受け、財務状況や財務指標の標準的な水準を把握し、経営改善に向けた取組みを実施した結果、191万6千円の当期純利益となった。

株式会社木蓮の経営状況

令和6年度は、本社部門として八雲町の企業版ふるさと納税に係る事務を中心とした業務を受託し、その結果11社／104万9千円の受託手数料を収入源とした他、八雲高校ビジネス科と連携した「八びす商店」でご当地みやげ「二味貝クッキー」の考案、制作依頼、町内イベントでの限定販売を行い、1万7千円の収入となった。

また、八雲商工会と連携した「合同企業説明会」を高校生及び一般向けに開催するなど多様な活動を行ったが、人件費等の販売管理費の増により1,195万6千円の当期純損失となった。

丘の駅部門は、町から指定管理を受託している八雲町情報交流物産館「丘の駅」の運営を担い、店舗での物販の外、デッキ販売や各種イベントへの積極的参加により、売上が1億1,415万3千円と過去最高となり、1,565万円の当期純利益となった。観光・交流促進部門については、前期に整備したサウナ・ドームテントなどキャンプ関連活用の増加による団体の受け入れに繋がり、18万4千円の当期純利益となった。

本部門は、これまでのノウハウや継続的な事業推進を図るため、令和7年度から独立・創業している。連結決算においては、「丘の駅」の営業実績が大幅に向上されたことにより279万円の当期純利益となった。

議会のうごき

《8月》

- 7日 総務経済常任委員会
- 21日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会

《9月》

- 1日 議会運営委員会
- 4～11日 第3回定例会
- 4日 総務経済常任委員会
- 5日 文教厚生常任委員会
- 11日 総務経済常任委員会
議会運営委員会
- 18日 文教厚生常任委員会

《10月》

- 9日 全員協議会
- 27日 会派代表者会議
全員協議会
- 30日 会派代表者会議

《11月》

- 4日 会派代表者会議
全員協議会
- 11日 臨時会（初議会）
総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
広報広聴常任委員会
議会運営委員会
全員協議会
- 20日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
広報広聴常任委員会
議会運営委員会

定例会・臨時会議件一覧

令和7年第3回定例会（令和7年9月4日～11日）			
議案第1号	八雲町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例	認定第2号	令和6年度八雲町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第2号	北海道市町村総合事務組合規約の変更について	認定第3号	令和6年度八雲町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
議案第3号	北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について	認定第4号	令和6年度八雲町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第4号	北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について	認定第5号	令和6年度八雲町水道事業会計決算認定について
議案第5号	令和6年度八雲町下水道事業会計剰余金の処分について	認定第6号	令和6年度八雲町熊石地域簡易水道事業会計決算認定について
議案第6号	令和6年度八雲町農業集落排水事業会計剰余金の処分について	認定第7号	令和6年度八雲町下水道事業会計決算認定について
議案第7号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第3号）	認定第8号	令和6年度八雲町農業集落排水事業会計決算認定について
議案第8号	令和7年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	認定第9号	令和6年度八雲町病院事業会計決算認定について
議案第9号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第4号）	発委第1号	八雲町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発委第2号	八雲町ケアラー支援の推進に関する条例
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発委第3号	国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発議第1号	〇ＴＣ類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書
報告第4号	株式会社青年舎の経営状況の報告について	発議第2号	ゆとりある教育環境を実現する意見書
報告第5号	株式会社木蓮の経営状況の報告について	発議第3号	高等教育の学費軽減・奨学金返済の負担軽減を求める意見書
同意第1号	八雲町教育委員会委員の任命に関し同意を求めることについて	発議第4号	将来にわたり安全安心な医療・介護制度の提供を求める意見書
認定第1号	令和6年度八雲町一般会計歳入歳出決算認定について	議員派遣の件	
令和7年第3回臨時会（令和7年11月11日）			
議案第1号	財産の取得について	同意第1号	八雲町監査委員の選任に関し同意を求めることについて
議案第2号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第5号）	同意第2号	八雲町副町長の選任に関し同意を求めることについて



第1回定例会 賛否一覧（反対のあった議案を掲載）

異議あり！

		賛成 ○ 反対 ×														
議 件 名		採決結果	赤井睦美	佐藤智子	横田喜世志	大久保建一	関口正博	宮本雅晴	倉地清子	三澤公雄	牧野仁	安藤辰行	斎藤 實	能登谷正人	黒島竹満	千葉隆
議案第9号	令和7年八雲町一般会計補正予算（第4号）	原案可決	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	／
発委第1号	八雲町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	／
発議第3号	高等教育の学費軽減・奨学金返済の負担軽減を求める意見書	原案可決	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	欠	○	／

※議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

常任委員会 の活動

令和7年8月から10月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

【総合病院からの報告より】

医療機関における病床削減に対する国からの給付金の内示があったが、一医療機関当たり10床を上限、令和5年度から2年連続赤字の医療機関、令和7年9月30日までの間に病床削減という条件が示された。中央6階病棟が現状運用されてなく、南2階病棟も稼働状況は5割から6割程度に加え、内

科常勤医師の確保は極めて困難な状況から、スリム化を図り、国が定める給付条件の10床の削減を進める。

このことにより受けられる給付金は4,104万円。削減による影響はなく、削減後の病床数は300床となる。

開院当時より入院時の食事提供は直営を維持し、きめ細かなサービスを提供してきたが、数年前より調理員の確保が困難を極め、さらに管理栄養士の確保についても非常に厳しいことから苦渋の決断で、R8年度から調理部門を外部委託とする。委託期間は3年間。業務委託業者の選定は、現在近隣でも実績がある国内大手3社から提案を受けている。調理員等の処遇はできる限り継続雇用を望んでいる。

また、町内における食材等の購入は、原則委託業者側の判断となるが、生鮮食料品等一定程度は地元から購入するよう病院側としても積極的に働きかけ、打診している。

互いに支えあえるやさしい町に



「ケアラー支援条例を策定」

家族が大勢いたり、地域の共助の力が豊かだった頃は、高齢者や心身に障がいを抱えた方、病氣の方の介護や看護は、お互いに交代で支え合いながら行うことができていました。

しかし、現在は核家族化が進み、高齢化等により地域の支え合いの力も弱まり、介護や看護による家族への負担がとて重くなっています。また、昔から「家族の事は家族で」という考え方もまだまだ残っているため、介護や看護に疲れ果てていても「助けて！」

「手伝って!」「疲れた!」という発信がでにくくなっています。こうした状況の中、文厚常任委員会では、ケアラーが置かれている現状と課題、支援条例制定の意義を学び、ケアされる人もする人も誰一人孤立とすることなく、自分らしく心豊かな生活を送ることができるところを目指して、ケアラー支援の推進に関する条例の制定に取り組みました。

委員会としては条例の制定を通じて地域の実態を知り、本当に困っている方たちへこの条例の趣旨を伝え、公助はもちろん、共生共助ができる八雲町を目指し、これから具体的な取り組みに繋がっていかねばならないと思っています。

一人ですべての事を成し遂げられる人はいません。困ったときに助け合うのは、当たり前のことです。この条例により、すぐに解決できるとは思っていませんが、いつでもお互いに支え合える社会を目指していきます。

総務経済

●通学路における自動車の速度抑制対策について（危機対策課）

通学路区間を、抜け道として利用する自動車が多いこと、また、速度制限無視が目立っていることから、次のとおり対策を講じる。

- ①八雲小学校体育館裏の町道
- ・可搬型ハンプの試験設置
- ・設置期間9月8日～10月10日
- ②八雲郵便局付近～共同児童保育所どんぐりクラブ付近まで
- ・ラバーポール25本の試験設置
- ・設置期間9月上旬～11月下旬



可搬型ハンプ



ラバーポール

【委員からの意見】

・車道の狭さから、交通事故の不安が指摘されていた場所に対策が行われることに安堵している。効果が認められたなら、ここには常設して、他の不安箇所には試験設置を広げていくべきだ。

●町有地の公売について（政策推進課）

山崎地区に所在する町有地を太陽光発電用地として活用したいという申し出を受け、一般競争入札の方法で公売に付する。

- 公売予定面積：約105ha
- 地目：原野、一部雑種地

●カムチャツカ沖地震での大津波警報に対する現時点での総括（危機対策課）

道路等の状況

- ・国道5号線通行規制9時40分～22時10分【森町鷺の木～花浦31.5km、八雲町黒岩～長万部町20.3km】等
- ・高速道路の通行規制10時7分～22時40分【大沼IC～苫小牧中央IC】

- ・JR7月30日運休、7月31日一部運休

避難状況

最大避難人数569人【7月30日13時45分現在】

- ・八雲小学校136人・町民センター200人・シルバープラザ60人・山越小学校90人・東野ふれあいプラザ13人・野田生小学校65人・落部支所13人・栄浜会館5人・その他図書館、相生公園等。

【委員からの意見】

・避難指示を発令したのだから避難行動をしなかった人の把握も必要ではないか。避難指示情報の入手状況の確認、避難場所以外への避難が多かったことから、ハザードマップの周知も含めた「避難行動の習熟」が必要ではないか。

・誰もが避難訓練の必要性を痛感した。

・幸いにも大きな被害が無かったので、多角的に検証して、今後に活かすべし！との結論となった。

●旧熊石高校跡地（行政財産）の貸付について（産業課）

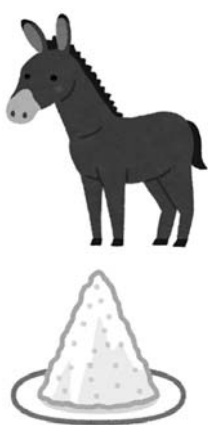
高田晃太郎さんへの旧熊石高校跡地の貸し付け

目的

海洋深層水を使った塩づくりとロバの放牧・飼育。

【熊石塩づくり計画】

海洋深層水を使った塩づくりのため、ロバを使って海水を工房へ運び、廃材を薪にして煮詰めてできる塩をロバに積み北海道、全国を行商します。



【委員からの意見】

- ・熊石地区のPRになる人材だ！
- ・工口な製法で作った塩をロバと売り歩く暮らしを面白がる方々が沢山いるのだから【Xのフォロー】数13・4万人（2024年8月現在）
- ・計画書も出されて本気度が伝わる。是非、応援するべきだ。

八雲町議会 新体制が決まる。



切磋琢磨し、成長していく議会へ！

八雲町議会議長 大久保 建 一



より開かれた議会を目指して！

八雲町議会副議長 宮 本 雅 晴

総務経済常任委員会

委員長	牧 野 仁
副委員長	安 藤 辰 行
委員	黒 島 竹 満
委員	宮 本 雅 晴
委員	横 田 喜世志
委員	三 澤 公 雄
委員	水 野 博 美



【前列右より安藤辰行副委員長・牧野仁委員長・宮本雅晴】
【後列右より黒島竹満・横田喜世志・三澤公雄・水野博美】

文教厚生常任委員会

委員長	横 田 喜世志
副委員長	関 口 正 博
委員	斎 藤 実
委員	赤 井 睦 美
委員	倉 地 清 子
委員	小 西 雄 一
委員	寺 田 広 樹



【前列右より関口正博副委員長・横田喜世志委員長・斎藤実】
【後列右より寺田広樹・小西雄一・赤井睦美・倉地清子】

議会広報広聴常任委員会

委員長	三 澤 公 雄
副委員長	倉 地 清 子
委員	赤 井 睦 美
委員	関 口 正 博
委員	水 野 博 美
委員	小 西 雄 一
委員	寺 田 広 樹



【前列右より倉地清子副委員長・三澤公雄委員長・赤井睦美】
【後列右より寺田広樹・関口正博・小西雄一・水野博美】

議会運営委員会

委員長	赤 井 睦 美
副委員長	三 澤 公 雄
委員	牧 野 仁
委員	横 田 喜世志

その他の条例委員等

監査委員	斎 藤 実
渡島廃棄物処理広域連合議会議員	関 口 正 博
	寺 田 広 樹
南部松山衛生処理組合議会議員	斎 藤 実
都市計画審議会委員	横 田 喜世志
民生委員推薦会委員	倉 地 清 子

耳を すまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

3期12年間八雲町政を担った岩村 克詔前八雲町長です。

Q 3期12年間本当にお疲れ様でした。 今のお気持ちは？

私が就任した当時、総合病院の不幸事、あわびの産地偽装問題が発生し、相当落ち込みました。しかし、その時に以前の助役さんが私にこう言いました。「町長、初めにこのような大きな問題が起こるという事は、あなたは大物になるということだよ。」と。私は、その時、その言葉の意味が分かりませんでした。後から考えると、「神様は超えられない試練は与えない！」と言われるように、「岩村だからこそ与えられた試練なんだ。」ということを経験したのだらうと思いました。結果、当初につらい目に遭いながら乗り越えたことで、その後もいろいろなことが起きましたが、落ち着いて対応することができました。やはり助役さんはすごい人だと思いました。

また、楽しいこともたくさんありました。その中でも名誉町民である大河原さんとの出会いは、この12年間の中でも大きいです。大河原さんの奥さんも女性の経営者ではトップで、財界人との人脈も太くもたれています。いろいろな会合に行っても、大河原さんや奥さんの愛子さんを知っている、交流があるということで、当時の石破総理大臣、赤沢大臣など、多くの著名人と面識をもつことができました。今では、町長ではなく個人的に岩村克詔の活動に付き合うと言ってきています。それは私にとってとても大きな財産です。

自分は大した人間ではないけど、出会いによって人は変わると思っています。「類は友を呼ぶ」だから自分で自分の周りを見れば、自分の今の立場が分かって思っています。16年前、町長選に出馬して落選した時には、消極的な気持ちになっていましたが、「町長でなくても、町のためになることはできる！」と気がつき、社会福祉法人を立ち上げ、色々なことを始めました。だから町長を辞めたとしても、町のために色々なことができると思っているし、町長でない分やりやすい面もあります。重いものが外れた感じで視野も広がったし、この12年間でたくさんの人に巡り合ったことが本当に「宝」だと思っています。

また、八雲、森、鹿部、七飯、木古内、知内、函館市で勉強会を開催し、政策もいろいろ考えました。その仲間関係も良好で、町長として本当に楽しかったです。今後、議会の役割はさらに重要になっていくと思います。町長と議会がお互いに話し合って、みんなで決めたら八雲町のために取り組む。町長は責任を取るけど、議会だってある程度の責任を取ることは必要であると思います。



これからの八雲町においての大きな課題のひとつは総合病院です。私は、1期目は、何をやったかという、予算書と決算書、病院の会計を全部読み込みました。いろいろ勉強しましたが、自治体病院は、現状のままでは、絶対赤字になるということが分かりました。優れた経営者でも医療は全く別物だと思っています。病院があることで、町民に安心感が生まれます。福祉の1丁目1番地はやはり病院だと思っています。だから病院を守るには、やっぱり財政を守ることが重要。

経営者の哲学。本当は役場職員にも経営的な感覚が必要かもしれません。

今後、私がこれまで取り組んできたウイスキー、ワイン、サーモンの各事業。これらは、ある程度、退任してからもしっかりと責任を持って関わっていきながら、良い方向に持って行きたい。

また、ふるさと納税でも、個人としてできることは協力していきたいと思っています。

**岩村町長 3期12年間の八雲町政のかじ取り、町の
トップセールスマンとしての活躍に心から敬意を
表します。
本当にありがとうございました。**



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。

製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

新しく委員長を託された三澤公雄です。
大久保議長の前で大きく進めて行くであろう『議会改革』にとって一番に求められるのは、その改革が町民にとって『実利』があることではないでしょうか。『実利』があるのは、まさに人それぞれ。故に多くの方々の意見も多様な方々からの意見を聴き『改革』につなげる必要があります。老若男女、全ての有権者だけではないや、そういうわけにはいかないでしょう。18歳未満の高校生は勿論、中学生、小学生だって、おもしろ心が付き、自我を表現でき得るなら、その全ての方々を対象にしましょう。そして外国籍であっても八雲町に居住されている方も含めての『全ての町民』にとつて『実利』を感じる『改革』。目指すなら、そこでしようか。ソレに資する『委員会』になる為には、これまで以上に『広く聴く』機能の発揮が必要でしょう。

これまで広報広聴常任委員会は「広報」「コウホウ」「コーホー」と略され、呼ばれてきましたが、これからは「広聴」「コウチョウ」「コーチョー」と呼ばれる様に頑張ります（ソレは無理か？）

議会広報広聴常任委員会
委員長 三澤公雄